

4 - 8 東海地方の微小地震の分布 (1981年11月1日～1982年4月30日) Distribution of Microearthquakes in Tokai District (November 1, 1981 - April 30, 1982)

名古屋大学理学部
School of Science, Nagoya University

前報¹⁾にひきつづき1981年11月1日より1982年4月30日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

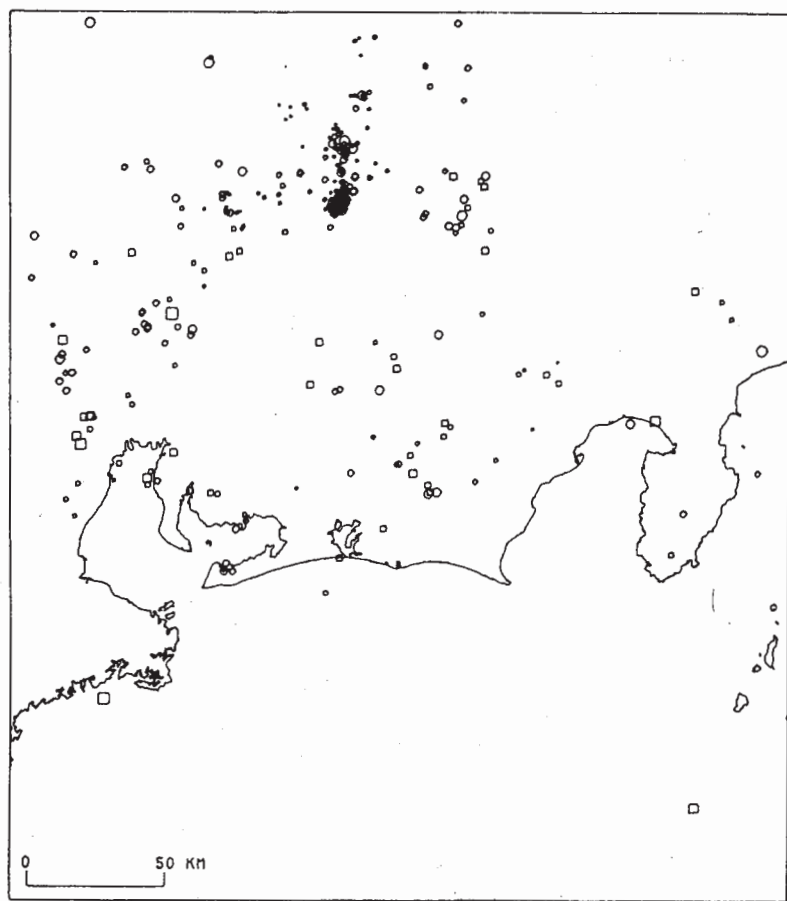
第1図には1981年11月1日より1982年1月31日までの3ヶ月間、第2図には1982年2月1日より1982年4月30日までの3ヶ月間に名古屋大学理学部の中部、東海および高山の地震テレメータ観測網によって観測された微小地震の震央を深さ別に示す。また第3図は上記6ヶ月間の地震のうち図中の枠内に発生したものの震源の垂直断面図である。

以下にその主な特徴を示す。

- (1) フィリピン海プレート内の地震については前報にくらべ地震数や活動域に大きな変化はみられなかったが、11月13日津付近のM3.5、11月26日岐阜市付近のM3.6、11月29日浜松付近のM3.9等の活動があった。その後、2月8日愛知県中部のM3.6、2月26日静岡県中部M4.3等の地震が観測されたが、著しい活動はなかった。
- (2) 地殻内の地震についても特に著しい活動は見られなかった。王滝村付近の群発地震は活動は著しくないがまだ継続しており、1982年に入ってから1月16日にM3.0の地震があり5個の余震が観測された。岐阜県中部では、1982年2月以降M3.0以上の地震が4個観測されている。
- (3) 駿河湾から伊豆半島内陸部での地震活動は非常に低調であった。

参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布（1981年5月1日～1981年10月31日），連絡会報, 27（1982），192 - 194.



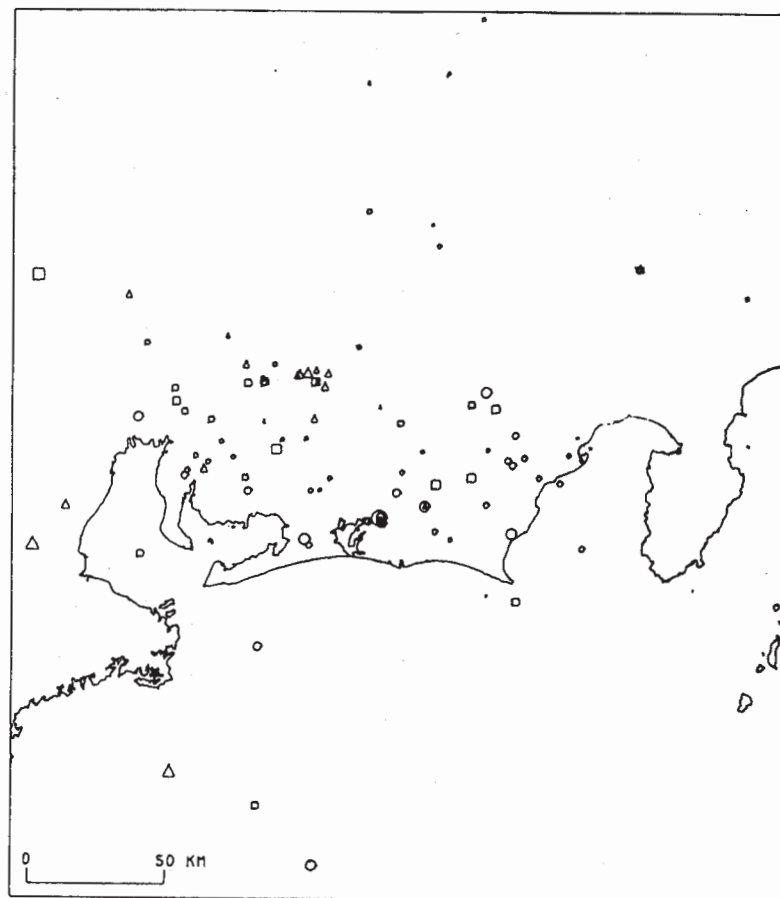
N=315

DEPTH 0 10 20 (KM)
○ □

MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

NOV 1 1981 - JAN 31 1982

(NAGOYA UNIV)



N=95

DEPTH 20 30 40 50 80 (KM)
○ □ △ ☆

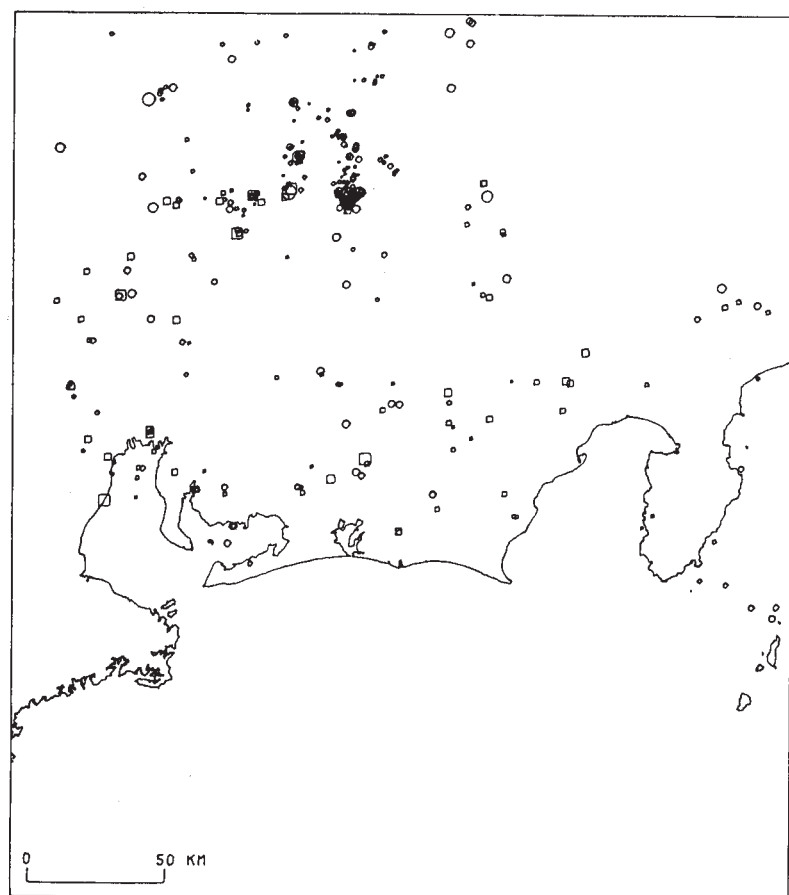
MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

NOV 1 1981 - JAN 31 1982

(NAGOYA UNIV)

第1図 微小地震の分布 (1981年11月1日~1982年1月31日)

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (November 1, 1981 - January 31, 1982).

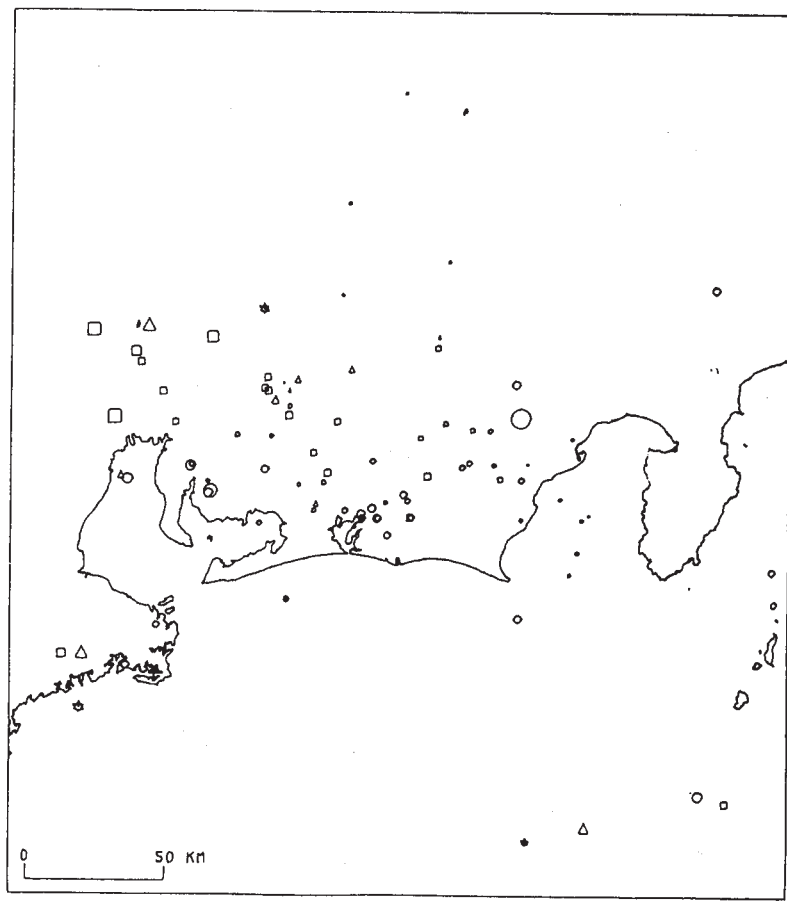


N=328

DEPTH 0 10 20 (KM) MAG. 1 2 3 4
 ○ □ • ○ ○ ○

FEB 1 1982 - APR 30 1982

(NAGOYA UNIV)



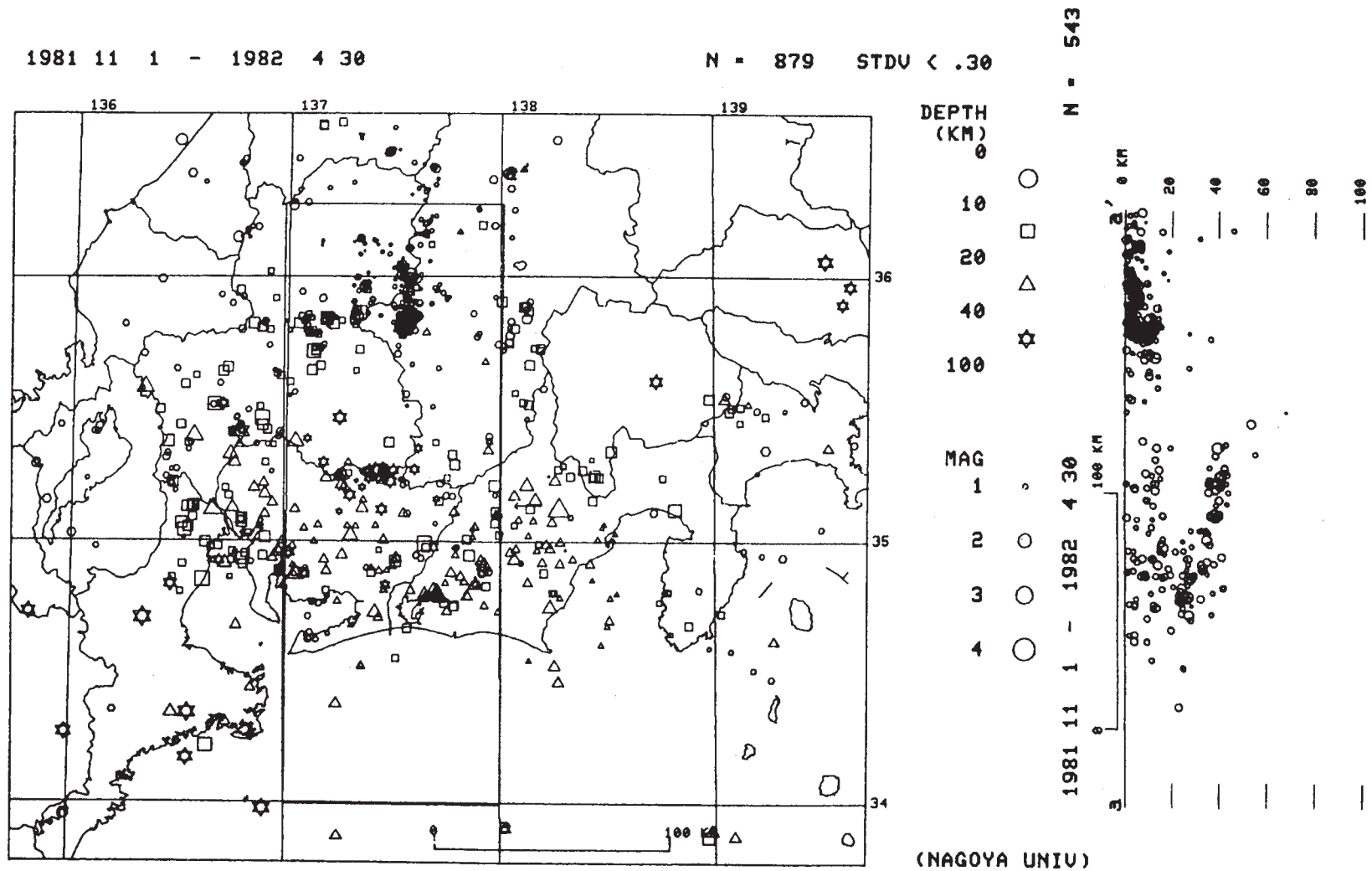
N=93

DEPTH 20 30 40 50 80 (KM) MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ • ○ ○ ○

FEB 1 1982 - APR 30 1982

(NAGOYA UNIV)

第2図 微小地震の分布 (1982年2月1日~1982年4月30日)
 Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (February 1, 1982 - April 30, 1982).



第3図 東海地方の微小地震震源の南北垂直断面 (1981年11月1日~1982年4月30日)

Fig. 3 Epicenter and focal-depth distribution of earthquakes in Tokai district projected on the vertical cross section in the N-S direction (November 1, 1981 - April 30, 1982).